

## < 2019年度事業報告書 >

### 【概況】

2019年度は、危機管理面の強化、東京オリパラ準備、世界ジュニアボート大会、の3点を重要課題として事業計画に定めた。

◎危機管理面・・・各本部の事業においては、夏場の熱中症対策、台風対応など、様々な事態が生じて柔軟に対応しながら実施することができた。戸田コースの藻の大量発生問題については、コース管理者および関係各所の尽力で被害の拡大は防げたものの解決には至らなかったため、引き続き大会開催時や加盟団体の活動にあたっては安全確保に留意する必要がある。

◎東京オリパラ対応・・・地元協会として専門部署を組成し将来を見据えた検討を進める予定だったが、東京都・2020組織委員会の施設準備計画の遅延の煽りを受け、東京都および海の森水上競技場の指定管理者との協議調整は来年度に持ち越された。

◎世界ジュニア対応・・・東京都の補助申請対応等から大会の主管に名を連ねたが、本件大会の組織委員会に、数多くの協会関係者ならびに多数の加盟団体の皆様が加わっていただくことで大会期間中においては十分な対応ができたと思料する。但し、協会として今後、海の森水上競技場で開催される国際大会に、如何に関わっていくかについてはノウハウを得るに至らなかった。

各本部の事業については、以下の通りである。

競技開催事業については、重要課題に挙げている夏季（異常気象と藻の異常繁殖）に対して日程変更や大会開催時刻の変更に取り組むなど、安定した大会運営を目指した。

普及事業については、ボート教室・大会開催および関係者の大会参加については例年通り取り進めた。重要課題に挙げた、パラローイングについては、担当いただくスタッフを集められず、来年度の継続課題となった。

強化事業については、国体において前年天皇杯・皇后杯優勝に王手をかけたので、引き続き、ジュニア発掘⇒強化育成⇒トップアスリートの仲間入りをさせる、という東京スタイルで選手強化を図った。

各本部の事業報告は以下の通りである。

#### 1. 競技開催事業

別表1の通り競技会を開催した。

#### 2. 普及事業

・今年も第19回谷古茂盾争奪マスターズ競漕大会、第3回東日本マスターズ競漕大会、第9回小学生交流レガッタを開催し、老若男女がレースに臨み、ボートを楽しんだ。特に2020オリンピック、パラリンピックの為に新設された6月の海の森水上競技場完成記念レガッタには各ボート教室の小中学生から大人まで、新ボートコースでのレースを楽しんだ。

・第3回東日本マスターズ競漕大会はエイト8クルー（内女子エイト1クルー）がエントリーし、又、台風の為に延期したにもかかわらず、第19回谷古茂盾争奪マスターズ競漕大会は男子エイト16クルー女子エイトは2クルー、第9回小学生交流レガッタは7クルーがエントリーし晴天のもと熱戦が繰り広げられ、戸田ボートコースでのレースを楽しんだ。

詳細は別表2の通りである。

- ・ボート競技の底上げと競技人口の増大を目的として、従来より多摩川、東大島、水元、日本橋川、東墨田、の都内5拠点を中心にボート教室、各水域のローカルレガッタ、マシンのローイングイベントを展開した。  
ただ、今年は残念ながら、一部が台風により中止を余儀なくされた。  
詳細は別表3のとおりである。
- ・今年も中学生が全国中学選手権競漕大会を始め、全国大会で大いに活躍した。その他、小中学生、各ボート教室会員が各水域のローカルレガッタにも積極的に参加し、活躍がみられた。

### 3. 強化事業

- ・東京都代表クルーのブロック大会、国体結果は、別表4、5の通りであった。
- ・当協会所属選手の海外大会への参加状況は別表6の通りであった。
- ・茨城国体に向けて選手の強化、競技力向上を図った。
- ・ジュニア選手を対象に強化合宿および講習会を実施した。
- ・トップアスリート事業8、9期を無事終了し、4名がボート競技を選び、現在進学先の高校で部活動およびクラブチームで活動している。
- ・トップアスリート事業10期生については専門プログラムを実施。(2019年12月終了)

### 4. 事業報告の付属明細書

2019年度事業報告には「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する付属明細書「事業報告を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。